

IMPROVING YOUR PRONUNCIATION

—より通じやすく、コミュニケーションに役立つ発音のために—

SHIBUYA Yoshiho

I. VOWELS 母音

Q: なぜ「ストレスのある母音」が重要？

A: 英語の単語には必ず「一番強く発音する母音＝ストレスのある母音」があります。これを正しく発音できれば、相手に伝わりやすく、スムーズな会話につながります。

Q: ネイティブスピーカーと同じ発音になる必要はありますか？

A: 必要ありません。実際、成人後にネイティブスピーカーとまったく同じような発音を身につけるのはほぼ不可能とも言われます。

また、英語も日本語と同じで、地域ごとに発音が違います。しかし、「ストレスの位置」はほぼ共通なので、ストレスのある母音を正しく発音すれば十分通じます。大事なものは「通じやすい」こと、つまりスムーズにコミュニケーションが取れることです。

Q: ストレスのある母音の特徴は？

A: 原則、以下の4つです。逆に、ストレスのない母音は弱く短く、曖昧な音になり、多くは [ə] (schwa＝曖昧母音) になります。

- ◇ 強い
- ◇ 長い
- ◇ 高い
- ◇ 母音の音質が明瞭([æ]なら[æ]、[e]なら[e]の音がはっきりしている)

Q: なぜアメリカ英語を基本に学修？

A: 日本の教育においては、原則アメリカ英語を主に使っていることと、複数の発音を混ぜると学修する際に混乱しやすいからです。

Q: 発音記号を覚える意味は？

A: 日本語には母音が5つしかなく、「アー」など、長く伸ばした音を入れても10個だけなので、カタカナでは英語の母音を正しく表せないからです。

◎例: apple [æ] / under [ʌ] / father [ɑ] → 日本語ではどれも「ア」、英語ではすべて違う音で発音

- 発音記号を学ぶことで「スペルと音の関係」を理解し、正しく発音できるようになります。
- 注意: [i] と [i:]、[u] と [u:] は長さだけでなく音そのものが違います。つまり、舌の位置や口の形が異なるということです。

◆ 母音[ər]

- [ər] は、発音記号(アルファベット)は2文字ですが、1つの音です。
- アメリカ英語を基本とした場合は [ər] のように r を発音します。
- スペルが ir, er, ur, or で、日本語の「アー」に聞こえる場合 → [ər]

◎例: bird, firm, stir, emergency, nurse, word

◎発音のポイント

- 唇を少し丸めて尖らせません(タコの口のように)。
- 舌を後ろに引いて発音します。

◆ 二重母音(1つのまとまりの音)

Q: 二重母音とは?

A: 2つの母音から構成されていますが、1つの音節(1つの母音)と見なされるものです。特徴は以下です。

- 音を作る(調音する)時に、舌の位置や唇の形が、音の始まり(スタート地点)から終わり(ターゲット地点)へと、途切れずに変化します。
- 多くの場合、1つ目の母音が強く長くなり、2つ目の母音は短く弱くなります。

◎例:

- ◇ [ei] → ate, vein, stay
- ◇ [ai] → ice, height, buy
- ◇ [ɔi] → oil, boil, soy
- ◇ [au] → out, doubt, how
- ◇ [ou] → own, home, toe

◎発音のポイント

- 最初の音([e]や[a])、つまりスタート地点が長くなり、そこから次の2つ目の音(ゴール)に徐々に移行し、舌の位置や唇の形が変化します。

◆ r を含む二重母音

◎例:

- ◇ [iər] → peer, cheer, pioneer
- ◇ [eər] → fair, pair, bear
- ◇ [uər] → pure, sure, tour (米国では [ɔr] で発音されることも多い)
- ◇ [ɔr] → warm, sore, core
- ◇ [ɑr] → card, part, heart

◎発音のポイント

- 最初の音([i]や[e])、つまりスタート地点が長くなり、そこから次の2つ目の音(ターゲット地点)に徐々に移行し、舌の位置や唇の形が変化します。
- r が付いていますが、実際は弱い音なので、[iər]、[eər]、[uər]の2つ目の音である [ər]は、[ə] のように発音するといいでしょう。

◆ アルファベット文字2つで1つの母音を表すパターン例

※例外も多いので、以下は「比較的よくあるパターン」として参考にしてください。

- ◇ eu, ue → [u:] (neutral, euphoria, true, rescue) ※[u:]の前に半母音(=子音)の[j](yの音)が付く場合もある。
- ◇ au → [ɔ] (autumn, pause, aura, taught)
- ◇ al → [ɔ] (fall, tall, always, talk) ※talk 以外は、[ɪ] も発音する。
- ◇ aw → [ɔ] (awful, law, draw)
- ◇ ea → [i:] (each, breathe, sea) / [e] (head, breath)
- ◇ ie → [i:] (chief, piece) / [ai] (tie, pie)
- ◇ ow → [ou] (show, own) / [au] (how, cow)

II. CONSONANTS 子音

Q: 子音の発音記号も覚える必要ありますか？

A: ほとんどはスペルで分かるので、大丈夫です。ただ、日本語にない音 (f, v, th や l など) は、発音の際に注意が必要です。

Q: 子音は重要？

A: もちろん重要です。子音が弱いと聞き取りにくくなり、コミュニケーションの妨げになることがあります。

Q: 子音を強く発音する際のポイントは？

A: 以下になります。

- 息をしっかりと吐きながら、(日本語の子音よりも)強めに、長めに発音
- 日本語にない音 (f, v, th など) はカタカナ(日本語の音)で代用せず、英語の舌や唇の位置に気を付けて発音

◆ f と v の音

◎例: f → fine, fair, after, cough

v → vein, TV, ever, love

◎発音のポイント

- f と v の音を作る(調音する)場所は同じです。
- f は無声音(声帯を震わせない音)、v は有声音(声帯が震える音)です。
- 上の歯を、そっと下唇の内側にあてて、その隙間から強く息を吐きだします。
- ポイントは絶対唇を「噛まない」ことです。噛んだら痛い上に音が出ません。

◆ th の音

◎例: th [θ] → thin, thigh, author, bath, breath

th [ð] → this, those, mother, bathe, breathe

◎発音のポイント

- thは無声音(声帯を震わせない音)[θ]と有声音(声帯が震える音)[ð]があり、音を作る(調音する)場所は同じです。
- 舌を、上の歯の下部のギザギザの部分に持っていき、そつとあてて、その隙間から強く息を吐きだします。下顎を上げることを意識するとやりやすいです。舌は必ず見えるくらい出します。
- ポイントは絶対舌を「噛まない」ことです。噛んだら痛い上に音が出ません。
- しっかり発音し終わるまで、舌先が出たままにしておくことが大事です。

◆ l の音

◎例: line, loud, clean, selling, pull

◎発音のポイント

- lは日本語にない音なので、意識して発音します。
- 舌先を、上の歯の裏側に、(自分が思う以上に)強く押し当てて、そのまま舌の両側から息を出すことで音を作ります。
- 単語の最後に l がある時は、しっかり発音し終わるまで、舌先が動かないよう気を付けます。

◆ r の音

◎例: rare, really, bring, try, cream

◎発音のポイント

- 日本語の r(「ら行」の r)と英語の r の音は音の作り方が異なるので、意識して発音します。
- 唇を少し丸めて尖らせ(タコの口のように)、舌を後ろに引っ張ります。
- 舌先が口中のどこにも触れないように注意しながら音を出します。
- br や tr など、他の子音の後に続いて r がある場合(子音結合と言います)は、1つ目の子音の後に余分な母音を入れないように気を付けます。日本語では b や c[k] の後にウを入れたり、t や d の後にオを入れがちなので、特に注意しましょう。

◆ l の音と r の音が入ったミニマルペア

Q: ミニマルペア minimal pair とは？

A: ミニマルペアとは、音が1つだけ違い、その違いで意味が変わる単語のペアのことです。言語ごとに音のグループ(音素 phoneme=その言語で意味の区別に関わる音の最少単位)が異なり、日本語と英語の音素は一部が異なっています。

◎例: rain – lane / right – light / read – lead / crowd – cloud / crew – clue

◎発音のポイント

- l と r は、特に日本人が区別しにくい音と言われます。ただし、発音できないわけではなく、日本語の「ら行」で代用して覚えてしまうのが原因の1つです。
- スペルを意識しながら練習すれば正しく発音でき、発音できるようになると自然に聞き取りも上達します。

◆ sh [ʃ] の音

◎例: shine, sure, shock, pressure, push

◎発音のポイント

- スペルが sh の時に多い音です。日本語の「し」の最初の子音に似ていますが、日本語の音よりも舌を後ろに引いて、息をより強く出して発音します。

◆ sh の音と s の音が入ったミニマルペア

◎例: she – sea / sheet – seat / shin – sin / shingles(帯状疱疹) – singles

◎発音のポイント

- 日本語では、「さ行」のうち、次に母音の「い」が来る「し」では、si ではなく shi になります。そのため、日本人は she と see や ship と sip などのミニマルペアの区別がうまくできないことがあるので注意が必要です。